

双松会会報

第二号(「双松」通巻9号・「松高北高同窓会報」通巻第11号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL ④4888・⑤3633
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ③3000

双松とグラウンド

会長 柴田 午郎

いま北高校のみんなが一番願っているのは、早く総合グラウンドの完成することであろう。もともと四十間堀を経た赤道湖へ流れる水路があまり広くなかつた上に、先年の千鳥町埋立によつて一層狭隘になった。これを何とか根本的に、若しそれが簡単にゆかないならば応急処置でもよい、水の出口を掘りてほしい。そうすればグラウンド一帯の水はけもよくなつて、水害の危険も少なくなるだろう。その為には国の予算を――

よつて、将来立派なグラウンドの完成を期したい。

赤山の校庭へ上つてみると、二本松の緑は濃く、樹勢旺盛をおもわせるが、

二学期になると、早々に学園祭が始まる。それに備えて、一学期末から生徒会執行部を中心に計画が練られる。

今年統一テーマは「走破――原点からの出発」と決まった。去年までは「飛翔」など景気の良いものが多かったが、時代の反映か、足を地につけた「走破」という堅実な言葉が選ばれた。もっともその気持ちの中には、この大行事を無難に早く通り抜けたらいいとも思っているようで、現実的すぎる嫌いなではない。

「原点からの出発」は当節流行の言葉だが、つまるところは、初心に帰ることを現代風に強調したものと解される。それなら別に、伝統を大切にすることと矛盾はすまい。むしろ、伝統を真に生かすためには、マンネリ化を避けて絶えず初心に帰ることが必要とされよう。

伝統は、その中にとつぷりと浸っていたのでは、かえつて自覚しにくい。海外旅行をしてみても、はじめて日本人情・風土の有難さが自覚されるように、学校の伝統も、卒業してからよく願ひます。

名簿の内容及びお求めの方法等は次の通りです。

一、掲載校 旧松中・松高・北高

二、掲載会員数 約二万六千人

三、記載内容 氏名(改姓された方は旧姓も)、最終学歴・勤務先(電話番号、所在地)、現住所(電話番号)・索引

四、調査期間 昭和五十五年五月～十月

五、体裁 B5版(週刊紙大)七一八ページ

六、販売場所 ①本校(電話注文可) ②市内書店

七、価格 三、五〇〇円(送料は事務局で負担します)

会員名簿ができました

編纂に当たった者の非力のため御迷惑をおかけした向きに、ただ「お詫びする次第です。」

不備な点もあろうかと存じますが、五年に一度の大事業です。今後の名簿改訂推進の意味を含め、おひとりでも多くこの名簿をお求めいただくようお願ひします。

が不十分で、室内は蒸せかえる酷暑を感じさせていた。折から残暑に向かつてこの贈り物は、補習科生一同にとって無上の激励となつてくれることだろう。

虫くい松

七月某日、縁あって土浦市郷土資料館を訪れた。▼土屋氏歴代の居城であった亀城旧蹟の一角にあって、茨城県南部の民衆生活史料が保存されており、展示物の中に、松の大木の根幹を輪切りにしたものがあった。▼それは、天明の飢饉を初め、幾度かの天変地異を年輪に刻み、戦後のキティ台風などがこの老木に与えた大きな影響を生々しく残したものであつて、比較的順調な成育期を経たと思われる約百年、続いても云うべき数十年。あきらかに戦後でも云うべき数十年。そして、晩年とて不調がちな数十年、そして、晩年とて最晩年が、それぞれ専門家によつて識別され、表示されていた。▼まさに土浦地方の歴史、特にその自然環境の変遷を物語る貴重な資料であつた。

▼ふとしたことから旧制中学の元祖とも云うべき、殿町はヘルン校舎の松の「亡」が話題になつた。早速諸先輩を労働せられるOBに事の真偽をたしかめていただいたりした結果、伝承の松がヘルン校舎のものであることが再確認され、また、当面その生存を脅かすような事態は起こらぬであろうことがわかつた。▼歴史の証人であれば当然のこと、長い年月を生きぬいた実績を無視したくないものだし、それなり

の風格は十分と見受けた。▼緑が乏しい松江市内にあつて、赤山周辺の緑、なかでも、赤松、椎、などのそれは得難いもの。▼それらが、知らず／＼のうち

に若者に与えている好影響は計りしれぬものがあると思う。▼情操教育の必要なきこととは云うまでもないが、それが口先だけのもの、あまりに知に頼り過ぎるところに難があるのではなからうか。▼花に人の盛衰を知るのもよい。が、生々発展、人の命のサイクルを超えてたくましい樹木の力強さ、その無言の訓に言い知れぬ魅力を感じる。▼双松は天にそびえて健在である。(諏)

同窓会館(起雲館)の二階に補習科教室二室と研究室一室があり、現在百二十名ほどの大学受験生の戦いの場となつている。その三室にこの夏、冷房装置取付けの工事が進んでいる。

昭和四十一年、PTAの手で補習科が設置されて以来、その施設等の整備を目的として、十六年にわたつて、當々と積み立てて来られた基金が今年、およそ四百万円になつて、かねてその使途について検討が加えられていた結果である。

当の教室は、体育館に隣接しているため、騒音防止上、外への窓が開けられず、廊下を開け放つただけでは通風

が不十分で、室内は蒸せかえる酷暑を感じさせていた。

折から残暑に向かつてこの贈り物は、補習科生一同にとって無上の激励となつてくれることだろう。

七月某日、縁あって土浦市郷土資料館を訪れた。▼土屋氏歴代の居城であった亀城旧蹟の一角にあって、茨城県南部の民衆生活史料が保存されており、展示物の中に、松の大木の根幹を輪切りにしたものがあった。▼それは、天明の飢饉を初め、幾度かの天変地異を年輪に刻み、戦後のキティ台風などがこの老木に与えた大きな影響を生々しく残したものであつて、比較的順調な成育期を経たと思われる約百年、続いても云うべき数十年。あきらかに戦後でも云うべき数十年。そして、晩年とて不調がちな数十年、そして、晩年とて最晩年が、それぞれ専門家によつて識別され、表示されていた。▼まさに土浦地方の歴史、特にその自然環境の変遷を物語る貴重な資料であつた。

▼ふとしたことから旧制中学の元祖とも云うべき、殿町はヘルン校舎の松の「亡」が話題になつた。早速諸先輩を労働せられるOBに事の真偽をたしかめていただいたりした結果、伝承の松がヘルン校舎のものであることが再確認され、また、当面その生存を脅かすような事態は起こらぬであろうことがわかつた。▼歴史の証人であれば当然のこと、長い年月を生きぬいた実績を無視したくないものだし、それなり

の風格は十分と見受けた。▼緑が乏しい松江市内にあつて、赤山周辺の緑、なかでも、赤松、椎、などのそれは得難いもの。▼それらが、知らず／＼のうち

に若者に与えている好影響は計りしれぬものがあると思う。▼情操教育の必要なきこととは云うまでもないが、それが口先だけのもの、あまりに知に頼り過ぎるところに難があるのではなからうか。▼花に人の盛衰を知るのもよい。が、生々発展、人の命のサイクルを超えてたくましい樹木の力強さ、その無言の訓に言い知れぬ魅力を感じる。▼双松は天にそびえて健在である。(諏)

涼風一足早く、起雲館に

同窓会館(起雲館)の二階に補習科教室二室と研究室一室があり、現在百二十名ほどの大学受験生の戦いの場となつている。その三室にこの夏、冷房装置取付けの工事が進んでいる。

昭和四十一年、PTAの手で補習科が設置されて以来、その施設等の整備を目的として、十六年にわたつて、當々と積み立てて来られた基金が今年、およそ四百万円になつて、かねてその使途について検討が加えられていた結果である。

当の教室は、体育館に隣接しているため、騒音防止上、外への窓が開けられず、廊下を開け放つただけでは通風が不十分で、室内は蒸せかえる酷暑を感じさせていた。

折から残暑に向かつてこの贈り物は、補習科生一同にとって無上の激励となつてくれることだろう。



今なお健在の双松

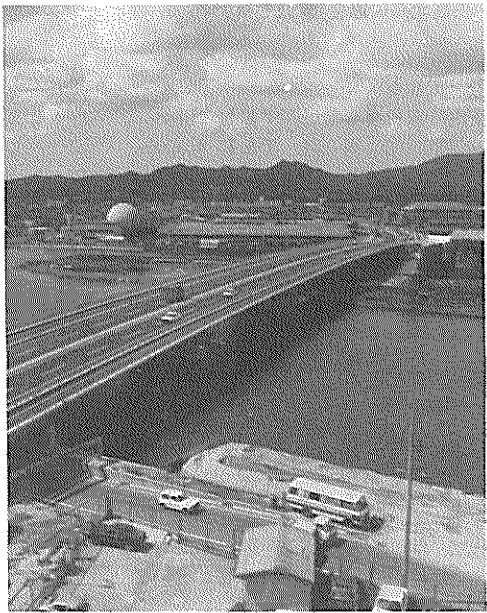
役員会開催される

本年度 第一回

去る六月二日、今年度第一回役員会が市内、一文字屋ホテルに...

今回の議題のうち、主な事項は次の通りである。一、同窓会名簿「双松」の頒布方推進...

川津校舎跡地へ橋 くにびき国体近づく



「くにびき国体」の開催は来年に迫りました。四百余日を残す現在、関係の施設づくり、選手育成、大会運営等の準備が着々と進められているところですが、川津校舎跡地には、既に県営プール、

昭和56年度 双松会会計予算

Table with 4 columns: 費目, 予算額, 備考, 備考. Total budget 3,720,000.

昭和55年度 双松会会計決算

収入総額 4,934,498円 支出総額 4,001,969円

Table with 4 columns: 費目, 収入金額, 備考, 備考. Total revenue 4,934,498.

Table with 4 columns: 費目, 予算額, 備考, 備考. Total budget 3,720,000.

Table with 4 columns: 費目, 支出金額, 備考, 備考. Total expenditure 4,001,969.

Table with 4 columns: 費目, 予算額, 決算額, 備考. Total budget 4,353,853.

Table with 4 columns: 費目, 予算額, 決算額, 備考. Total budget 4,353,853.

Table with 4 columns: 費目, 予算額, 決算額, 備考. Total budget 4,353,853.

Table with 4 columns: 費目, 予算額, 決算額, 備考. Total budget 4,353,853.

昭和55年度 会務報告

- 1. 会議等 55.5.1 常任幹事会(一文字屋ホテル)...

創立百周年記念基金特別会計 昭和55年度 実施状況報告

収入総額 4,334,942円 支出総額 4,101,869円

Table with 4 columns: 費目, 予算額, 決算額, 備考. Total budget 4,334,942.

起雲館から(2)

今年もまた夏は「甲子園」である。七月二十三日のNHK TVで中国地方向けに、四十六年前、昭和十年の旧松中村旧大田中の死闘の様が放映された。...

校医信太格二郎先生御勇退

先生は、昭和十五年、鳥根県立松江高等女学校々医に就任されて以来、今春まで実に四十一年の長い間、献身的に又情熱的に御尽力下さいました。...

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。芝蘭室の「信太」の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。...

百年史補遺(一)

「北高百年史」をひもとくと伝統の重みがいかに伝わっているのには驚きもありませんが、限られた紙数の関係等でも取りあげられず、埋もれたままの諸先輩の足跡も多くある。...

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。芝蘭室の「信太」の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。...

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。芝蘭室の「信太」の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。...

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。芝蘭室の「信太」の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。...

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。

芝蘭室の一々の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。芝蘭室の「信太」の品が、こうした「若かりし日のわが夢」を語っている。...

(文中敬称略)

各期だより

松中五十期(昭和五年辛)

今村 亀太郎

めつばう暑い時や寒い日は除いて、ほとんど毎月松南公民館別館、松南苑(和室十二畳)で例会を開く。メンバーはその都度違うがおおむね十五人。こどもも毎度集るのだが話というものは尽きないものだ。最近話話枯れて珍談が多い。思いつく女性、それも内地外地さまさままで、いつどこでだれと、どうして、など話はおおい露骨になって来た。でも嫌らしさがない。驚くことに、学校時代無口でおとなしかったやつが話題が豊富。最近誰かが「笑話会」と改名したらと言出した。話がはつむのと反対に酒のほうはメッキリ弱くなって来た。無理もない、皆な古稀に達したものだ。

松中五十七期(昭和十二年辛)

芦田 恒夫

「あと一六・九六年」これは男子六十二歳の平均余命年数である。このことは、五十七期生の汝等よ、あと一六・九六年経てば、概ね半数ぐらいになつて了うぞ」という冷酷な数字であることに気付かなければならぬ。そうすると、同窓会に毎年出掛けたとしても、あと十回ということになり、年一回の集りも、あだやおろそかにはできないのではなからうか。それこそ万障繰りあわせて参加し、以て生ける暇を確めたいものである。当番幹事の責任とやり甲斐も、またここに存するといふべきか。

今年の同窓会も近づいた。懐しのあの顔、あの声がはびこることであろう。また、卒業以来四十四年ぶり、今浦島のように、ひよっこ顔をだして出してくれよう。

寄稿のおねがい・其一

今回から本紙第二面に連載を始めました「百年史補遺」欄への寄稿をお待ちしています。本校百年の歴史の中で、現在、うすもれたままになっている様々なできごと等についての原稿をお寄せ下さい。

るのは誰だろうか、楽しみにしておる。参考までに「年齢別余命年数」(抄)を付記する。なお0歳のものを「平均寿命」という。為念。

年齢	男子	女子
0	73.46	78.89
20	54.72	59.83
30	45.17	50.07
40	35.70	40.42
50	26.78	31.05
60	18.51	22.13
70	11.38	13.96
80	6.28	7.66

昭54. 簡易生命表による。

松高七期(昭和三十一年辛)

内藤 守

私たち七期は、卒業後四半世紀がたち、代りに子供が母校に通う頃となった。通学する彼等を見るとき、二十五年の時の流れが、夢のように想われる。当時の松高は二、〇〇〇名位のマンモス校で、知合えるのは、数十名だったように思う。今思い返してみても、当時の松高のなんと自由闊達だった事か。勉強した記憶はないが、色んな事をしたという思いはある。「わだつみの声」を早朝配布したり、歌声運動をやったりした。E.S.S.にアロンシュタイン先生を迎えた時、英語が通じた時、今でも忘れる事は出来ない。私たちは先生方を大方仇名で呼んだ。まるでそれが実名であるかのように……。その中の数名の方とは、母校で、又街で今でもお会い出来るのは、なんともうれしい。最後になつたが、松高七期は、八月盛大な同窓会をやる積りだ。

松高九期(昭和三十三年辛)

小林 忠夫

仕事柄、毎日色々な方と逢い話す中で、よく「人生・幸せ」という事になる。人間の幸せとは? と問ひながら、想い出が多い程幸せだと思つたりする。現に私はこの世の中で一番幸せな者だと思つているから。毎年九月、松高・北高の近畿同窓会が開かれる。先年、大阪の会場に出席する機会を得た。卒業以来初めて逢う顔、顔……。出た「カイ」があつたとつくづく思ったものだ。遠来の私にスピーチが廻つて来た。こよなく愛して

るの出雲弁、ズーズー弁を駆使してしゃべりまくる、皆さんに「ふるさと」を懐しんでいただいたいと思う。それ以来学生時代は言葉も交わさなかつた方々の交際が続いている。出来ることなら、今後とも出席したいと思う。同窓会に出る事が、想い出を増やしてくれてくれることだけは事実である。私の人生は六〇歳。それまでたくさんの想い出を作り続けたいと思う。皆さん、同窓会に集まりましょう。

卒業生御著作の蒐集について

校史資料

松江北高校図書館では、本校卒業生の御手になる御著作品と、学校史の資料となるもの(過去の本校に関わる一切の品々)を蒐集しております。長い伝統の中で先輩諸氏の御研鑽の成果を後進の鞭撻の資とするものであります。御惠贈いただければ、起雲館内校史資料室(芝蘭室)に大切に陳列、保存させていただきます。御著作品をお持ちの方、本校の過去を偲ぶよすがとなるものをお持ちの方、またはそういう方を御存知の方の御一報を切にお願い申し上げます。ちなみに、過去二年間に御惠贈いただいた資料の一部を左に挙げさせていただきます。(順不同)

- OS四十二年の川津校舎航空写真
- OS十六年の松中寄宿舎会計連絡文書
- OS五十年記念絵巻書原画
- OS十六年漢文教科書
- OS十九年相模部諸兄の写真(図書館)

松高十二期(昭和三十六年辛)

岡 美知雄

高校卒業してから二十年経過。子供も徐々に手がからなくなり、頭頂(白髪など)とか体型(肥満など)がことのほか気になる年頃。同期生との比較に同窓会に出席。当時の日々を思い出し、気持はぐつと若がる。松江でも再々盛大な同窓会が開かれるし、東京でも先般(五月二十四日)六十名も集まって開会された。幹事諸氏の御苦勞

に感謝し、今後とも同窓会には是非出席したいし、皆にも呼びかけたい。友人と語り合う時の味は格別です。又同窓会名簿「双松」の我が十二期は多数の方々のご協力により充実したものにりました。是非購入して下さい。

「各期だより」(このページ)の欄の御利用をお待ちしています。本紙を会員諸兄にとつて、より開かれたものとするために、この欄の充実を計ろうと思つています。同窓会の案内、会員諸兄の手になる催し物その他の紹介、尋ね人等々に御自由に利用いただきたいと思つています。ちなみに本紙の発行部数、一回、約二万部に達します。

北高十四期(昭和三十八年辛)

長 迫 和 助

大変御無沙汰しております。同窓会は卒業してもなかなか思ひつかないよう、どうもひと歳とつてからかのように。我々の期は、昨年の同窓会名簿再編の機会に、十年振りに、松江在住の、連絡がとれた者だけで昨夏懐しい顔が集まりました。やはり、ひと歳とつたのでしようか。集まれば昔の話、今の仕事、家族の話、来なかつた友の消息と尽きないようでした。特に、諸般の事情による都合からのUターン組に懐かしさが集まりました。お世話する幹事もようやく四名に増え、今年も良い機会に集まれば、と思つています。松江在住者のミニ同窓会の積み重ねが遠方の友も呼べる同窓会になると思つている此の頃です。

北高十六期(昭和四十年辛)

金 平 憲

三十五歳という年、お仕事に、又家庭におかれても一番多忙ではないかと思われませんが十六期の皆様益々お元気で活躍の事と存じます。我等が学んだ北高も、来年の夏季団体の主会場となり、松江の様子も随分変わりました。一昨年の夏久しぶりに同期会を開き約四十名(男女全半々)が会し、ジョッキをかたむけ、暫し北高生に帰り、

遠き日の面影をさぐり、「お前は何ルムだったか」で始まり、一人も欠ける人もなく二次会へ、そして時の経つのも忘れ次々と歩き、語り合いました。近頃、何時やるかと良く聞かれますので、来年の正月にやろうと思つております。詳しくは又お知らせしますが、楽しいものでは是非一度顔を覚えて下さい。私か長谷川宏君に連絡を下されば御案内します。

北高二十期(昭和四十四年辛)

梶 成人

二十期卒業生の皆さんお元気ですか。我々二十期は昨年八月に同窓会を開催しました。丁度同時期に南校の全卒業生会(矢野原会)が開かれ約八十名の出席があつたようですが、我々は二十期だけで九十余名と、出席者数でも南校を圧倒し、おおいに我々二十期卒業生の結束の固さと意気の高さを示し、素晴らしく盛り上げた会となりました。同窓会開催の連絡にあたっては現大田高校の石橋克也先生、北高双松会事務局の皆様には大変お世話になりました。この紙面を借りて御礼申し上げます。来年の正月には又大同窓会を計画しております。同期生の皆さん、新しい年の幕開けを故郷松江の同窓会で飾ろうではありませんか。

北高二十六期(昭和五十年辛)

陸 浦 英 哉

高校時代には、それぞれ自分の青春を彩る、いくつかの出来事があるものですが、様々な思いが甦つてくることでしょうが、すでに六年が過ぎました。ほとんどの方が社会人となられ、各地で御活躍のことと思つています。そろそろ冷静に、あの頃を振り返るのではな

いでしようか。つもる話に時の過ぎるのを忘れさせてくれる旧友、同期生というだけで親近感をおぼえてしまうものです。一度、全員で同期生会を開きましよう。再三、話は持ち上がったのはいるようですが、いつも立消えになっています。今度こそは……御期待のほどを。

事務局(校内幹事)の転出入

五十五年九月(〇は松中〇期)

(退職) 吉村一夫(社会) 〇

五十六年三月 (転出)

前田暁男(理科) 〇 浜田高へ

安部昭彦(理科) 〇 高松7) 平田高へ

梶谷和正(体育) 〇 高松9) 出雲高へ

竹谷卓祐(数学) 〇 高松8) 出雲高へ

神田迪子(国語) 〇 高松10) 松農高へ

原田幹夫(英語) 〇 高松10) 平田高へ(転入)

春木猶由(数学) 〇 高松5)

奈良井清夫(国語) 〇 高松8)

川上康男(体育) 〇 高松21)

河原一朗(数学) 〇 高松23)

渡辺達也(社会) 〇 高松26)

片寄康江(英語) 〇 高松3)

金岡敏統(数学) 〇 高松9)

白石隆子(家庭) 〇 高松20)

福原幹夫(事務) 〇 高松21)

山根昭子(司書) 〇 高松14)

〇〇〇〇 今夏はこのほか暑い毎日

〇〇〇〇 でした。ここに「双松会」会

〇〇〇〇 報第二号をお届けします。

〇〇〇〇 御多忙の中、快く原稿をお

〇〇〇〇 寄せ下さいました方々に、心

〇〇〇〇 からお礼申し上げます。

〇〇〇〇 幅広い会員相互を結ぶ機関誌として

〇〇〇〇 の会報を目指して編集しましたが、不

〇〇〇〇 行届の点、多々あるかと思つていま

〇〇〇〇 す。前号では、誤植等見苦しい点が多

〇〇〇〇 ありましたこと、深くお詫びしま

〇〇〇〇 す。叱咤激励のほどお願いしま

〇〇〇〇 す。各期の幹事さん、「各期だより」の活

〇〇〇〇 用を御遠慮なく、会員の皆さん、自由

〇〇〇〇 な御投稿を。

〇〇〇〇 双松会の益々の発展を祈りつ……。